

8-NOVEMBRO-1929

No.498

SEMANARIO DE SÃO PAULO

聖文新報

Director
Ricardo Konfresa
Caixa, 58 BAURU

率料告廣
半段
段全
10,000

料讀
一ヶ年
金
2,000

後金
1,000

回問
500

公報
500

年金
500

金
500



殖民地哀史

白く染められた墓

浅見哲之助

「でも、一寸沸かして参りますから……」

「いいですよ。男子に虚言御座るませんです」

演説口調に云ふので、正雄も精子も、厚造の笑ひに釣られて、笑ひこんで了んだ。

「それはさうと、時に正雄さん今日少し用があつて来ましたが、他でもないが、明日バストは、足りなくて困つてゐるが、こんなに云つちや不體だが、貴方とは、他に收入つてない昨今だから——どうだらう出来たら明日一日若奥さんんに働いてもらへないだらうか?」

「ハイ、何もかも御世話になつてゐる昨今ですから、何でも……精ちゃんお前どうかい?」

良人の返事を不安さうに聞いてゐた精子は彼は訊ねた。

「大丈夫だとも、ただこうして夫の同意を得る様に彼女は正雄の方を見て云ふた。

「それぢや雨が降らなかつたらボルテラの処まで来てゐて下さい。道具と一郎をマンダしますから……」

こんな會話を後厚造はすぐ出て行つた。

「何て親切な人だらう!」

正雄は涙すら目に宿して感謝の言葉を送つた。

精子は先日の嫌らしい事件は未だ良人に話してなかつた。一んな恐ろしい結果を招くかも知

れないと思ふと、彼女はそれが恐ろしくて話す氣は起らなく、少さい胸の中に藏されてゐた。

常磐の國のアラジルの秋の梢には落葉は見なかつた。茂つた梢を徹して輝かしい程、彼女の視界にさし込む太陽の光線は

幾日／＼もの看護疲れやら、心つかひと、食物らしい食物も取らないで、寝れ切つた彼女には

生れて初めて賃金を得る労働

だらう。彼女は返事してしまつた事が今更の様に悔まれた。

空になつたタタ鍔と、不安とが彼女の心の中に乱舞し始めた

「だつて生くる爲には喰はねばならないわ。私としちやこれより進み道はないんだもの……」

私の神様どうか弱い精子を守つてゐて下さい。」

南國の太陽は同じ強さでかゞ涙に頬をぬらして彼女は負けな

がら云ふた。

「お父さんに云ひつけますよ」

「お父さんが怒つたら、俺皆なに

マの上に、あぐらをかけてボケ

「バ、イが隣りの奥さんと、アヤ

シイ事をしてゐる、と話してや

「一郎さんはいい子だから、仕事が済んでから休まないの……」

「奥さんは矢張り是れが心配だ

のネ……」

親指を示して、厚造そつくり

の好色な頬下に、太い線の娘を

寄せて、嫌な目付をして笑つた。

自分を蔑まれてゐるやうな不

快と、子供にしゃべり早熟

に行つた。

弱い人間が、自分以上の強い

ものによりますが事は、信仰を

解しない人は判らない諺で

「さうでなかつたら、ゆつくり

やるさ……」

仕方なしに彼女も青いグラマ

女は、「さうぢやないけど……」

と云つた。

「奥さん、此の指に小こいクヒ

久方の友を訪ねしらひしさよ

忘れ得ぬ嬉しさき日なりあの旅路

心ゆくまで君と語りし

身につまる物語り聞く涙がな

ゆみ／＼思ふ人の身の上

身に秘めて

月光は瘦せたラノンジヤの

葉末を振り

傍らにボンディアの花

二株 三株

鳥は歌ひ、緑りの牧場には牛馬

が悠々と草を喰んでゐる。平和

沈黙の月は遠くふるさとの菊

に

我思ひ今宵地球の

半面をかけてさまよふ。

る」不安であつた今日の労働がよく程身を近づけた。

「だつて、何もさいつてない

沈んで行く太陽に手を合して感わ……」

「さう……ありがとう」

一郎は握られてあつた手が、

りや終るんですから、少し休み放される同時に、男のふれて

まぜう」

今年やつと十六になつたばかりの、厚造の一人息子の一郎は

の字も判らぬくせに、淫蕪な血

をひいた、無茶苦茶に早熟した

「奥さん、いいぢやない……誰

も見てないから……」

たつた十六の子供の言葉とし

て、どうして信じられよう

但し殖民地で、黄金萬能論者の犠牲になつた、一郎のやうな

人残して來た事が不安でならなかつた。

厚造の妻君に、不在中は頼ん

て、矢張り病夫と一緒に來てあるが、矢張り病夫と一緒に來てあるが、矢張り是れが心配だ

かつた。

「奥さん、いいぢやない……誰

も見てないから……」

子供であった。

「早く終つた方いゝから、休みなにしませう」

一郎は握られてあつた手が、

りや終るんですから、少し休み放される同時に、男のふれて

まぜう」

「奥さん、いいぢやない……誰

も見てないから……」

「早く終つた方いゝから、休みなにしませう」

一郎は握られてあつた手が、

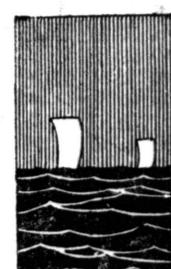
りや終るんですから、少し休み放される同時に、男のふれて

まぜう」

「早く終つた方いゝから、休みなにしませう」

一郎は握られてあつた手が、

りや終るんですから、少し休み



國だより

在米邦人が
太平洋横断壯舉

シヤトルから一氣に東京へ

太平洋横断計畫中の邦人兒玉千平氏(二八)は同乗者アボット中佐、無電技師コッフマン兩氏と共に資金調達中だつたが、この度加州成金ジョセフ・ローバー・グ氏から三万五千ドルの出費あり、十六日契約書調印、直ちにロサンゼルスのロックヒード飛行會社から既に製作済みの機體をうけとり、サンフランシスコからシヤトルに向けて飛び天候次第で直ちに東京に向か飛行することとなつた。

同機は「朝日號」と命名されたふ載ガソリン八百ガロン、速力百五十哩、三十時間で東京まで飛切る豫定である。

明治神宮競技大會に

聖上陛下初の行幸

畏し體育御獎勵の大御心
聖上陛下には運動御獎勵の思召しから来る十月二十八日から一週間明治神官競技場で催され意があつたので、宮内省では直ちにこの旨明治神官體育會に通じた、よつて十七日午前十時同體育會副會長平沼亮三氏は文部省菊池文書課長、北學校衛生課長、岩原衛生官等と共に宮内省出頭、この有難い思召を拜受し更に白根宮房庶務課長、木下野口兩待從と共に種々打合せを行ひ同十一時四十分退出した、行幸の御日取りは未定であるが、聖上陛下のこの種の競技會行幸の事は初めての御事と承る。

百機人乱れて

空の大演習

大洋を航破した有力なる航空防備堅き軍港を強襲する場合

東京海上空の壯觀

萬國を收受して二十餘の私設鐵道を認可した形跡があるのを、贈收摘發された結果であるが、贈收

テクサマガニ、同氏が、二百萬圓を收受して

日本ホタルのマネージャーとして

松島事件に關係して、後に

晴天白日の身となつた故笑浦翁と、今回的小川氏との二名のみである。

晴天白日の身となつた故笑浦翁と

リンス邦人學生
寄宿舍問題管見

森 虛無男

上に生活してゐるのである」といふ信偽が是非必要であると思ふ。目的に喰ひ、目的に働く事より見て、中に入るの徒は社会事業の幹部或は、社会事業建設運動委員に於ける資格は、社会事業建設運動を通じて、學生寄宿舍建設運動の經過を推察するに物質的には完成の見込みは充分あるやうであるが、其の運動には何等熱らしいものが伴はないらしい。果して聖報及び時報の報道が眞實であつたれば、貴重な時間や金錢を浪費せぬ内に、全々廢止した方が、上別であらうと思ふ。

横山健堂氏曰く、「抑々學問、才智、富、地位に價値があるものでない。誠意誠心、異劍味そのものが國家の命脈であり人生の力である」熱とは建堂の所謂誠心誠意の活動の副作用ではないか。故に寄宿舍建設運動に熱があれば、運動委員に誠意がないと云ふ結論に到達せねばならぬ然らば何故誠意がないか、僕は彼等運動委員の諸兄に、徹底した主義がないのが最大原因であると思ふ。

「命もいらぬ、名もいらぬ、金もいらぬ人は始末に困る。この始末にこまる人ならでは、艱難とともにし、國家の大事を談じ是れは大西郷の言葉であるが此始末に困る人とは自己一個の慾望満足の生活以外に何か目的のある人である。もう目的の人ではなく理想の人である。彼が君の爲め國の爲めなればこそ「丈夫玉碎するもせん全を恥づ」といつたやうに白熱的活動が出来たのである。然り而して苟も社會指導機關の根幹となり、或は社會事業建設に直接盡力する處の有職者は、只單に横に弘がつた學問のみを修得したばかりでなく、其部分的な學問と綜合して徹底的な主義、即ち「自分は此爲めに地球

讀書家の福音！

僅少の代價にて澤山の讀書を得らる、好機會を御利用下さい品切れにならぬ内是非御試み下さい

大衆文學全集

黒駒の勝蔵 清水次郎長 半七捕物帳 非園千入

里見 トン 谷崎 精二 三宅やす子 徳田 秋聲

島崎 藤村 菊地 幽芳 賀川 豊彦

明治大正文學

田山 花袋 里見 トン 武者小路實篤 鈴木三重吉

泉 鏡花 菊池寛 佐藤 春夫 佐藤紅緑 森鷗外

現代日本文學全集

新興文學 坪内逍遙 柳浪 緑雨 吉田経次郎

現代ユーモア全集

新興文學集 ナ、夢 ナス 沙翁傑作集

菊池 寛 全集

短篇小説集下 文學評論 それから 門 別冊 行人 評論編

菊池 寛 全集

新興文學集 ナ、夢 ナス 沙翁傑作集

菊池 寛 全集

巡回映画プログラム

解説者 遠藤 直治

一、ボルトガル軍隊生活

二、雪の十和田湖

三、喜劇父の愛

四、悲劇龍の鳥の唄

五、現代劇内外映画十數十あり

何卒御引立の程幸上ます

パウル市インコントイダンシア街三ノ十七

三、卷

四、卷

五、卷

六、卷

七、卷

八、卷

九、卷

十、卷

十一、卷

十二、卷

十三、卷

十四、卷

十五、卷

十六、卷

十七、卷

十八、卷

十九、卷

二十、卷

二十一、卷

二十二、卷

二十三、卷

二十四、卷

二十五、卷

二十六、卷

Marcenaria JAPONESA MASSAGI KOGA BAURU'

商工展覽會金メタル受領

巡回映畫部 お試し下さい

古賀政次

御料理 伊勢屋

旅館並に瀬川すがえ

精綿 精米及 ベンナ牌カフエランデヤ町

醤油

佐藤 豊 大 郎

佐藤 常 喜

福田屋製菓所

高橋 増造

ノン市

代田商會

ノロエスワシントンナガリス市アベニーダ五番三五

代田喜市

中央ホテル

和洋御菓子製造卸、小賣

キンケ年五十四ミル

婦人俱樂部 少年俱樂部 富士 雄辯 現代

少女俱樂部 各四十九ミルレース

婦人世界 婦女界 主婦の友 改造 朝日 新青年

Armazem JAPONEZ C.261Pennapolis

穀物仲買

穀物仲買

峰松商店

アラツババ譯キソビデノベプロ街

ノロエスワシントンナガリス市アベニーダ五番三五

代田喜市

CASA Minematsu —Araçatuba—

雜貨 小間物 農物産買入 其他

アラツババ變更線アルトビメンタ町

郵便二〇八

田口洋服店

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

CASA OHARA D E IRMÀOS, Machina de Beneficiar Arroz ARAÇATUBA

卸穀 小賣

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

精綿 精米及 フバ製粉所

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

峰松春二

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

大原兄弟商會

カルロス・ゴメス街

郵便二〇八

郵便二〇八

精綿 精米及 フバ製粉所

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

瀬川すがえ

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

印醤油

佐藤常喜

佐藤常喜

佐藤常喜

佐藤常喜

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

佐藤常喜

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

佐藤常喜

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

佐藤常喜

アラツババ譯郵便二〇八

郵便二〇八

郵便二〇八

佐藤常喜

アラツババ譯郵便二〇八

郵

「土の香」
旅にて
伊波瓶六

一、土の香

緑の蔭で私の顔に面白い模様でも出来たかと、見る人もないのに獨り微笑む。真夏の日盛りだ。遠くの紅い屋根の上には陽炎がゆら／＼と立ち昇る。三四間先のトッコの上にも歩いて来た浮出する様な白味がかつた桃色の道からも、珈琲の樹陰に、とり残されたベンベン草が二莖、三莖、私と同じ様にあらわいである。連なつた珈琲の葉と葉との間より遠い大空が見れる。白けた雲や空だ。雨を賣らしさうにもない。今朝、「早よう雨が降らんと米なんかもう枯れまへばい。……珈琲は安いし、米は枯れるし、どうなりますかな」

日に焦げた頬を一と撫して彼等は話し合つてゐた。私は疲れた足を投げ出した、から滑り落ちる。「土の香」それは永い間私が求めてゐたものだ。

夕闇は丘と丘との間の小川の邊りより静かに派くなつて行く薄墨のバスを草を求めつゝ牛馬は横切つてゆく。今しがた迄明るかつた森の上空も、今はかかるに其の名残りを止めてゐるのみだ。

「螢、螢、コッカの水は甘いよソッカの水は苦いよ……」妙な片言交りの發音で、子供が二人三人螢を呼んでゐる。川邊に切残された木の陰で、青い光は燃ねては消ぬた。通り魔のやうに一匹又一匹、深い闇を横切ると、輕い足音を立てゝ、子供等の聲は動く。物静かな夜だ

思ひ出される。「かつて遠い過去に於て、わたしの胸に描かれた、幾人の女たちが、どこに行つてしまつたのか、そして恐らく永遠にめぐり逢ふ機會もなく別れ、死んで行くであらう事が、螢の青い光の……」

もう十キロも行けば、愛の君と逢ひ見らるゝ處に來てゐながら、ゆけない私は悶ゑた。螢の手を求めて、飛び交うのを見ると私は、己の力の螢にも劣るのを恥しく思つた。不幸に子供の手に捕へられて力弱く死んでゆく螢の青い光の吐息に己の姿を見出す事が出來さうだ。

子供の螢を呼ぶ聲は又聞ひて来る。足音もする。青い火は光つては消ぬた。

二、在留申告書

既ニ徵集エン期ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ引續キ昭和五年度徵集エン期ヲ願ハントスル者ハ在留申告書ヲ明治五年三十一日迄ニ差出スヘシ（様式参照）但シ昭和五年一月一日迄ニ年齢三十七年ヲ過ル者ハ十二月一日以降トナスコト尙右書類ノ申告書ハ本年十一月二十日開始ス

三、在留申告書及在帝國外徵集エン期願ノ申告書

在留申告書ヲ差出ス必要ナシ

四、在留申告書及在帝國外徵集エン期願ハ管轄公館ヨリ直接返信料郵券三百レーベル同封スルコト

五、願書ハ必ス正副貳通送付スルコト證明手數料ハ廢止シタルニ付送付ノ要ナキモ願書を着ノ通知ヲ希望スル者ハ返信料郵券三百レーベル同封スルコト

六、在留申告書及在帝國外徵集エン期願ハ各管轄在外公館宛提出スルコト

七、在留申告書及在帝國外徵集エン期願ノ様式左ノ如シ

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、現住地	伯國州線驛耕地	
一、初メテ徵集ヲエン	年月日	（不詳ノ場合ハ記載セサムモ便宜受理ス）
右及申告候也	昭和年月日	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	
右之通常帝國外ノ地ニ在留申付兵役法第四十二條ニ依リ	港出發	

（註明シ得ル餘白ヲ存シ置コト）

一、本人	氏名	名印
一、本籍地	府縣郡市區町村字番地	
一、在留地	伯國州線驛耕地	
一、帝國外徵集年月日	年月日	

頓智
滑稽

卷之三

CASA Ichinose Araçatuba

○内外商品○ 買入 農産物

内外雜貨類 北西線 ビリグキ驛ベ

小間物 其他 乘合 吉

立通學 寄宿 育

關機育教等初

御視察 御移轉

御部 保

PHOT. LIRIO リリーグ寫眞館

ビリグキ驛

Hotel Estação MARILIA C. P.

ノロエ

出来たたらう、世の中は面
い、蜘蛛にも足が八本、タコ
足が八本だ、アハ……蜘蛛
叩きながら踊つて表へ飛び出
てしまつた。